片倉高校サッカー部通信　第29号

令和3年7月24日

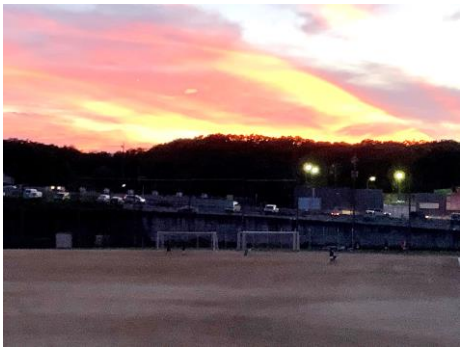
futbol y vida

Poco a poco …

選手権に向けTR＆TRMがスタート!!
この夏、全てをサッカーに賭ける!!

2021 厳しい“夏”のTR＆TRMがスタート!!

選手権一次トーナメント突破とリーグ戦優勝に向けて全てを賭ける!!



＜今年の夏も片倉グランドで鍛える＞

一学期が無事に終了しました。お手元に通知表が届いたことと思います。子どもたちの成績は如何だったでしょうか？サッカー部恒例の学期末の二者面談では上級生数人の成績の伸びを感じました。努力の賜物ですね。反面、一年生はもっと学習面でもサッカー同様に貪欲に頑張りたいものです。

さて、例年より少し早く「梅雨明け宣言」が出され、東京にも本格的な夏の暑さがやってきました。期末考査後からのトレーニングで体力は回復したものの、今は「暑熱対策」として暑さに適応できるように身体を徐々に馴らしているところです。

また、本来であれば、今頃は菅平合宿に出発し定番（標高 1300m の高地トレーニング）の厳しい走り込みを経験し、五日間の合宿をチーム全員で乗り越えることによって強い一体感が生まれ、子どもたちは心身ともに大きく成長して自信をつけて東京に戻ります。そこからは東京の蒸し暑さに身体をもう一度馴らしながらTRとTRMを繰り返し、湘南・埼玉遠征などを経て八月下旬からスタートする選手権一次トーナメントに向けて準備をして臨んでいきます。

しかし、残念ながら、今年も新型コロナの影響で、貴重な体験のできる合宿や県を跨いでの遠征は中止となりました。現段階では、その代替えとなるものを再考しスケジュールを組み直しているところです。具体的には、通い合宿的に一日練習を行ったり、フェスティバルに代わる TRM の連戦などの予定を立てているところです。わが校には運が良く広いグランドがあるお陰で練習試合の相手には何処のチームよりも恵まれています。子どもたちもこの期間でたくさん揉まれ成長することと思います。今のチームは部員が少ないので全員がゲーム数を確保できるというメリットもあり夏が終わった三か月後辺りからこの成果が顕著に現れ始めます。

どのチームの三年生にとっても、高校サッカー最後の公式戦となる選手権予選には格別の思いがあるものです。また、残り少なくなってきたユースリーグも同様です。この夏は、三年生がチームの舵を取り、目標に向かって邁進したいものです。＜2021 夏は三年生がチームを牽引する＞

“2020 ヨーロッパ選手権” イタリアが二試合連続、延長・PK 戦の末優勝!!

6 月 11 日からヨーロッパ 11 都市で行われていた第 16 回ヨーロッパ選手権は、7 月 11 日に決勝戦が行われ、イタリア代表がイングランド代表を延長・PK 戦の末勝利し、二回目の優勝を飾りました。現在も、候補であったイタリアの強さがどこにあるのかを私なりに分析しているところです。

今大会では、前回ワールドカップとはゲーム様相に変化が見られ（コパアメリカは観戦できなかったので全てとは言えませんが)、これがこれからのサッカーのトレンドになっていくのではないかという印象を持ちました。ルール改正の影響もあるのか**GK**からビルドアップしショートパスでボールを動かしながら相手の守備の隙間を縫ってボールを受けまた動かし気が付くとスペースができてそこから一気に加速しゴール前に入るという場面が多くみられました。**GK**の大型化にもよるのかサイドからのセンタリングはシュート性の高速ボールが多くで、今大会でオウンゴールも目立ったことも関係性が高いと思います。これはスペインのお家芸かと思っていましたが、今大会では多くのチームがトライしていたように感じました。

前任校の頃からビルドアップとポゼッションのところでは、相手チームに対策を練られ上手くいかなかった時期もあり（名誉なことなのですが)、壁にぶつかったことが何度もありましたが、寝不足になりながらも今大会のゲームを殆ど観戦して、私なりに世界最高峰のサッカーをもう一度整理し期末考査後から片倉高校でも再チャレンジしているところです。もちろん、難易度の高い新たなチャレンジは一朝一夕にはいかないこともありますが、積み重ねそして積み重ね、更に積み重ねていくことが、“K’s football style”の進化に繋がります。先ずは、この夏の期間にどこまでできるようになるのか子どもたちの成長が楽しみです。

＜今大会印象に残ったスキルフルな選手＞

「挨拶・礼儀」の次はサッカーで!!

夏のスケジュールを再考中に、以前 TRM をした高校の先生からゲームの申し込みがありました。「最後の選手権前に片倉高校と TRM をやりたい」と子どもたちの方から申し出があったとのこと。その理由が、「同じ都立高校で一生懸命頑張っているチーム。そして、挨拶や返事など礼儀がしっかりできている。」とのことでした。これに「サッカーが強い!!」が加わると尚更いいのですが…。

また、先日、練習に参加した近所の中学生も学校に戻り翌日の練習から「大きな声で挨拶や返事ができることは格好いい。俺たちもやろう!!」とサッカー部員に提案したようです。サッカーを通しての成長の目安とは、他者から受ける評価であり、実はスタッフとして一番嬉しいものなのです。

ここ十年、学校でも「挨拶や返事」ができない子どもたちが増えているように感じます。中には「そういうものは強制するものではない!!」と最もらしく語る無責任な大人もいます。でも、本当にそうなのでしょうか？最低限の礼儀作法を教えることは大人（親）の役割だと私は感じています。理想は、自然にできるようになることですが、「人間的な立ち居振る舞い」の基本は。「型」から入り「心」は後から付いてくることもあります。サッカー部では、TRM に来られている先生方やスタッフ、選手、主審の方、観戦中の保護者の方へ感謝の気持ちを込めて大きな声で挨拶をするように指導しています。もちろん学校内でもです。先ずは、当たり前のことを日々実践することそして継続することでやがて習慣化し自分のものになっていくのです。